

At a Glance

2017年3月期業績ハイライト(連結決算)

売上高/対前期比増減率	営業利益/営業利益率	当期純利益*/当期純利益率*	研究開発費/対前期比増減額	設備投資額/対前期比増減額
27兆5,971億円 2.8%減	1兆9,943億円 7.2%	1兆8,311億円 6.6%	1兆375億円 181億円減	1兆2,118億円 806億円減

事業展開・地域別データ

※当社株主に帰属する当期純利益

地域	生産拠点・ 製造事業体* (2017年2月末時点)	ディストリビューター* (2016年12月末時点)	研究開発拠点* (2017年3月末時点)	連結従業員数 (2017年3月末時点)	連結生産台数 (2017年度)	連結販売台数 (2017年度)
日本	16	—	5	58%	46%	25%
北米	11	5	3	13%	23%	32%
欧州	9	29	3	5%	7%	10%
アジア ※日本を除く	24	20	4	17%	19%	18%
その他	9	113	1	7%	5%	15%

※いずれもトヨタ、レクサスブランドの拠点数

歴史・沿革

「トヨタAA型乗用車」発売
(1936年)「トヨペット クラウン」発売
(1955年)「カローラ」発売
(1966年)「セリカ」発売
(1970年)「ソアラ」発売
(1981年)「レクサスLS400*」発売
(1989年)
*日本名 セルシオ

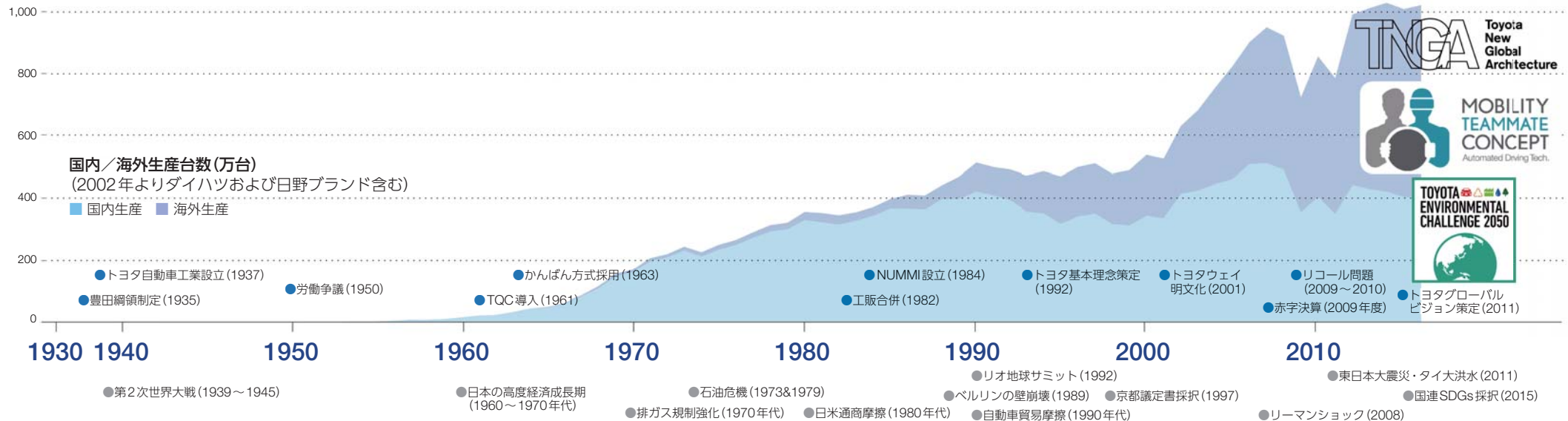
「プリウス」発売(1997年)



「MIRAI」発売(2014年)



TRI設立(2016年)

トヨタらしさのルーツと
自動車事業への挑戦

- 豊田佐吉が「自動化」の機能を含む織機を発明
- トヨタ初の生産型乗用車「トヨタAA型乗用車」発売とともに、豊田喜一郎が将来のモータリゼーションを先読みし、トヨタ自動車を設立
- 初期品質不良では、「お客様第一」の精神のもと「現地現物」で「改善」を実施
- 工場新設時には、流れ作業による一貫生産をめざし、「ジャスト・イン・タイム」の考えを織り込み
- 労働争議は、後に労使が互いを「リスペクト」する礎に

トヨタらしさの確立と
社会課題解決のイノベーション

- 量産体制を整えるとともに、「品質は工程で造り込む」との品質管理手法や「トヨタ生産方式」を確立
- 社会問題となった大気汚染に関し、これまでの技術の延長線上では解決困難な課題にチャレンジし、当時世界で最も厳しい排ガス規制へイノベーションで対応
- 二度の石油危機を経て、省資源・省エネルギー化とともに、機能横断チームによる原価改善活動に取り組み

相次ぐ試練と
グローバル化の拡大

- 日米通商摩擦を機に、GMとの合弁会社NUMMIにて海外初の量産プロジェクトを開始
- 地球温暖化への懸念の高まりに先駆け、世界初のハイブリッド車「プリウス」を量産化
- 新興国でのモータリゼーションを見越し、海外生産を拡大。2007年に海外生産が国内を上回る
- 金融危機による赤字計上、リコール問題、東日本大震災・タイ大洪水と相次ぐ試練を、お客様第一・チームワークで克服

新たなモビリティ
社会の未来に向けて

クルマを取り巻く大変革をオポチュニティと捉え、「もっといいクルマづくり」と、「電動化」「情報化」「知能化」へ戦略的にシフトすることによる新たなビジネスモデルの構築に取り組みます。これにより、今までの「クルマづくり」だけの進化にとどまらず、社会ニーズに応える「社会プラットフォーム」、人工知能(AI)をはじめとするクルマを超えた「技術プラットフォーム」にまで変革の幅を広げ、未来のモビリティ社会に向けて幅広い領域でお客様の期待を超える価値を提供していきます。